

- 1 題材名 音楽の特徴に注目しながら、情景を味わおう。
- 2 本題材の目標
 - (1) 曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。 (知識)
 - (2) 音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。 (思考力、判断力、表現力等)
 - (3) 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組むとともに、音楽に対する感性を豊かにする。(学びに向かう力、人間性等)
- 3 本題材で扱う学習指導要領の内容

第1学年 B鑑賞(1)鑑賞

ア 鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ア)から(イ)までについて自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ 次の(ア)から(ウ)までについて理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

[共通事項] (1)ア

(本題材の学習において、生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」、「旋律」、「テクスチュア」)

4 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思 音色、旋律、テクスチュアを知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5 題材について

(1) 題材観

本題材は、B鑑賞(1)鑑賞 ア(ア)、イ(ア)に関する内容である。具体的には、音色、旋律、テクスチュアなどの音楽を形づくっている要素に着目し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、要素や構造と曲想との関わりを感じ取って聴き、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことをねらいとしている。

本題材で鑑賞する「春―第1楽章―」は、ヴィヴァルディが独奏協奏曲として作曲した楽曲で、ソネット(14行からなる短い詩)をもとに作曲されたものである。「春―第1楽章―」は3分程度の短い楽曲だが、ソネットの内容に合わせて曲想の変化がはっきりしていることから、音楽的な特徴を捉えやすい楽曲となっている。中学校に入学後、初めての鑑賞となるため、楽曲の一部や全体を鑑賞したり、2つの楽章を対比しながら鑑賞したりする活動を通して、知覚・感受したことを、自分なりに評価し、葉で説明し合っ音楽のよさや美しさを味わう活動に適した楽曲であると考え、本題材を設定した。

(2) 生徒観

本学級の*月*旬の意識調査では、鑑賞の活動が好きと答えた生徒は約*割だった。好きな理由としては、「様々な音楽に触れることができる」、「歌うよりも聴くことのほうが楽しい」などと答えた生徒が多い。苦手と答えた生徒は約*割だった。苦手と感じる理由としては「聞いていると眠くなる」、「歌うことのほうが好き」の他、「感想を書くことが苦手」、「どんなことに着目して聴いたり書いたりしたらよいか分からない」などが挙げられた。生徒は、知覚・感受した内容を文章で表現することが苦手ということが分かった。

現状を改善するための手立てとして「3分間鑑賞ドリル」と題し、授業開始3分間に楽曲を鑑賞し、音楽から知覚・感受したことを文章で表現する活動を始めた。また、それと同時に「言葉のストック」と題し、オンライン掲示板アプリ「パドレット」を活用し、音楽を形づくっている要素と関連する音楽的な語彙を、保存・共有する取り組みを始めた。これらの活動により、強弱やリズムなどについては、的確に知覚・感受して文章で表現できるようになってきた。一方で、音色や旋律、テクスチュアなどについては、「旋律が強くなっていく」、「音色が突然早くなった」と記述するなど、音楽を形づくっている要素の働きを適切に捉えることができず、音楽のよさや美しさを味わって聴くことに課題が見られることが分かった。

(3) 指導観

生徒の実態から、まず、第一次では全体的な感想や特徴的な音楽を形づくっている要素についての気づきを意見交換する活動を設定する。この活動により、他者の多様な感じ方に触れることで、生徒が比較的気づきやすい音楽を形づくっている要素である「強弱」、「リズム」だけでなく、「音色」、「旋律」、「テクスチャ」などの様々な要素が複合的に作用することで、曲想が変化しているということに気付かせたい。第二次では、楽曲の全体像を捉えるとともに、場面ごとに区切った音源で鑑賞することにより、知覚・感受する過程を容易なものにし、より主体的な鑑賞の学習活動につなげていく。また、一人一台端末を活用した個別の鑑賞活動により、各自のペースで繰り返し鑑賞することでより深く鑑賞する手立てとしたい。以上のような鑑賞活動を通して、単なる情意的な感想を述べるのではなく、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く力を育みたい。

6 題材の指導計画（3時間扱い）

○は指導に生かす評価場面、◎は記録に残す評価場面

次	時	学習内容・活動	知	思	態	評価及び評価方法等	
1	1	<p>目標：「春-第1楽章-」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。</p> <p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 曲想の変化は、どのような部分からとらえることができるのだろうか。</p> </div> <p>2 課題に迫る。</p> <p>(1) ソネットごとに鑑賞する。</p> <p>(2) 全体的な感想や特徴的な要素について意見を交流する。</p> <p>(3) 「春-第1楽章-」の音楽の構造に着目して聴く。</p> <p>(4) 曲想の変化がどのような部分から捉えられるか考える。</p> <p>3 本時のまとめを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>曲想の変化は、強弱やリズムだけでなく、旋律や音色など、要素同士の組み合わせによっても、曲想の変化をとらえることができる。</p> </div>				○	<p>態 曲想と音楽の構造との関わりに関心をもって鑑賞することが難しい生徒には、音色、旋律、テクスチャなど焦点を絞って繰り返し鑑賞したり、「言葉のストック」を活用しながら知覚・感受したことを自分なりの言葉で説明し合ったりできるように支援する。</p> <p>【聴取、観察】</p> <p>知 様々な音楽を形づくっている要素が複合的に作用することで曲想の変化が生み出されていることに気付いているかを見取る。気付くことが難しい生徒には、楽曲の構造を図説したものを提示したり、曲想が変化した部分を図で指し示したりすることにより、気づきを促す。</p> <p>【聴取、ワークシート】</p>
2	2 本時	<p>目標：知覚したことと感受したことの関わりを自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。</p> <p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題 ヴィヴァルディは、「春」の情景をどのように表現したのだろうか。</p> </div> <p>2 課題に迫る。</p> <p>(1) ソネットに表される情景を、音楽でどのように表しているかを考えながら鑑賞する。</p> <p>①全体で鑑賞する。</p> <p>②個別に鑑賞する。</p> <p>(2) 捉えたことをグループで共有する。</p>				◎	<p>・前時の学習内容を振り返ってから本時課題を確認することで、学習に見通しをもつことができるようにする。</p> <p>思 音色や旋律、テクスチャに着目して曲想の変化を捉えることが難しい生徒には、顕著に特徴が捉えやすい箇所を提示したり、ソネットA～Eの楽譜を比較するように促したり、音の重なり方が比較的とらえやすい箇所を個別鑑賞したりすることで、変化を捉えることができるようにする。 【聴取、ワークシート】</p> <p>・ヘッドフォンを使用した個別の鑑賞においては、タブレットの画面上にどの部分を鑑賞しているのかを表示される音源を用い、個別の支援に役立てる。</p> <p>・グループでの共有により新たに得た気付</p>

	<p>(3) 自分の考えをまとめる。</p> <p>(予想される生徒の考え) 春がきたよるこびを、バイオリンの明るい音色と弾むような旋律で、途中の雷鳴の部分は暗く重々しい音色、中低音の弦楽器の音で表していると思った。</p> <p>3 本時のまとめを行う。</p> <p>まとめ ヴィヴァルディは、「春」の情景を、音色や旋律、テクスチャなどの要素を複合的に組み合わせ表現した。</p>	<p>↓</p> <p>◎</p>	<p>きをワークシートに追記するように促すことで、思考を深めることができるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートの記入に戸惑っている生徒には、「言葉のストック」で参考になりそうなものを提示することで、感受した内容を整理することができるようにする。 <p>知：【ワークシート】</p>
<p>3</p>	<p>1 本時の課題を確認する。</p> <p>課題 「春」のおもしろさはどのような部分から感じ取ることができるのだろうか。自分の考えを紹介文にしてみよう。</p> <p>2 課題に迫る。</p> <p>(1) 作曲された時代背景を知る。 (2) 「冬-第1楽章-」を鑑賞し、全体的な感想や特徴的な要素について意見を交流する。 (3) 「春-第1楽章-」との共通点や相違点を考えながら鑑賞する。</p> <p>3 「春-第1楽章-」の、よさや美しさについて考える。</p> <p>(1) 自分の考えを紹介文に表す。 (2) 紹介文を交流し合う。</p> <p>(予想される生徒の紹介文) 「春-第1楽章-」の音楽的なおもしろさは、ソネットを、強弱やリズム、音色や旋律、音の重なり方などを工夫して表現しているところです。 特に、「黒雲と稲妻が空を走り、雷鳴は春が来たことを告げる」という部分では、大きく低い音で黒雲を、ヴァイオリンの高音で雷鳴を、それらが掛け合うことで、稲妻に遅れて雷鳴が響いているところを表現しているところです。さまざまな音楽的な仕掛けがあるところが面白いと思う。</p> <p>4 本時のまとめを行う。</p> <p>ソネットの内容に合わせ、音色や旋律、テクスチャなどの要素を複合的に組み合わせ、曲想を変化させているところが、この楽曲のよさや美しさである。</p>	<p>↓</p> <p>◎</p> <p>↓</p> <p>◎</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「春-第1楽章-」と同一形式で演奏されていることや、旋律（長調短調）の違いなど、共通点や相違点に気付けるようにするために、「冬-第1楽章-」を鑑賞する。また、日本の冬との違いを紹介することで、ヨーロッパの冬のイメージと日本の冬のイメージの比較がしやすいようにする。 2曲の共通点や相違点への気付きから、「春-第1楽章-」のよさや美しさに気付くことができるようにする。 <p>思：【聴取、ワークシート】</p> <p>態：【聴取・観察】</p>